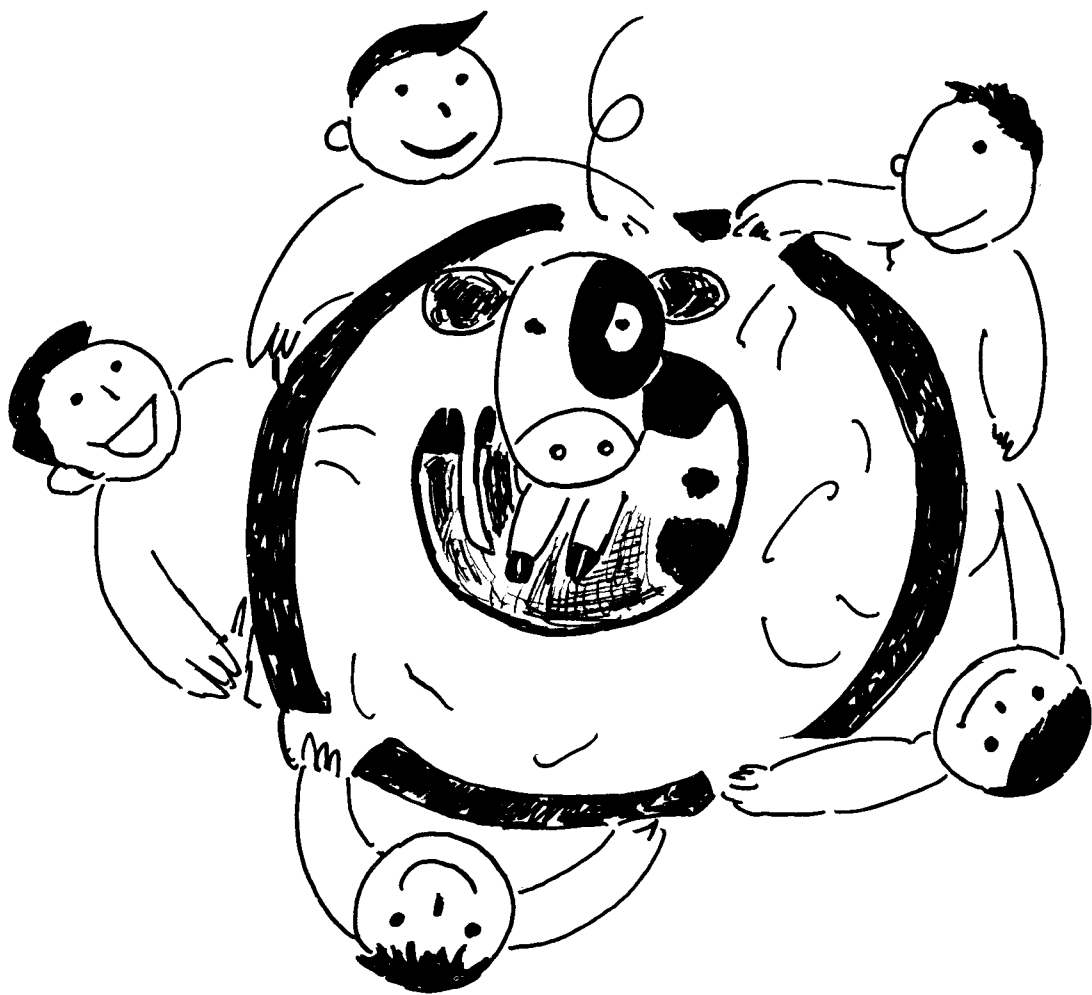


V 担い手



1. 担い手 確保・育成

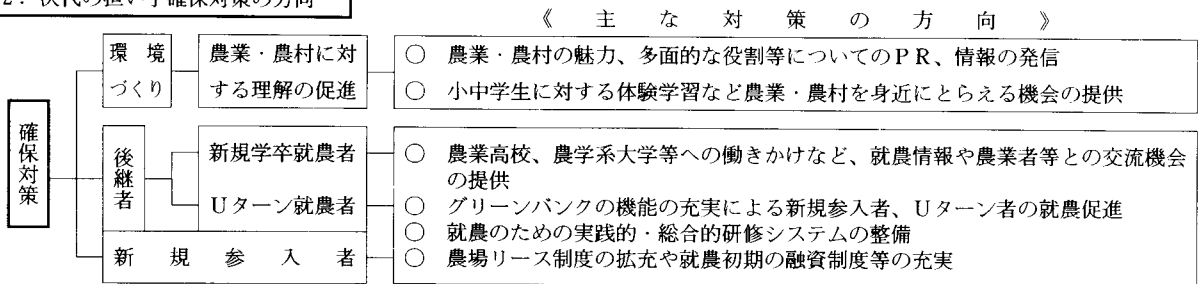
(1) 担い手確保の現状と問題点

1. 担い手確保の現状	<ul style="list-style-type: none"> 農家数、農業労働力は大幅に減少 離農する主な理由は後継者問題と負債問題が全体の8割 農業従事者の高齢化が進行 管外からの新規参入者は、離農戸数を大幅に下回って推移 	<ul style="list-style-type: none"> 農家戸数 1,420戸→1,321戸 (根室管内) (H2年) (H5年) 農業就業人口のうち60才以上の割合 (根室管内) 18%(S60年)→25.4%(H5年) 就農者の内訳(H3~H5 南根室地区) 新規学卒28名 移転就農25名
2. 担い手確保をめぐる問題点	<ul style="list-style-type: none"> 地域農業にとって、次代を担っていく意欲的な若者をいかに確保・育成するか〔若い担い手が十分に確保されない理由〕 所得水準が不安定・農業（農政）の将来に不安がある・経営継承に係る世襲的な意識がうすれてきている・新規参入には、多額の資金と技術取得に大きな障壁があること・農村生活環境が劣っている（医療、教育、情報、娯楽など） 魅力がない 	

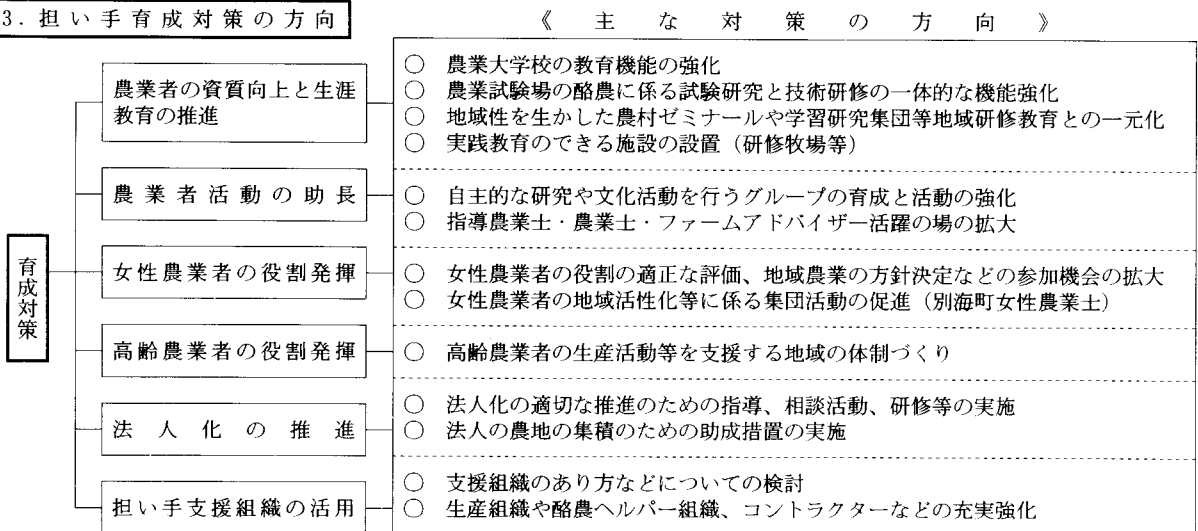
(2) 担い手確保育成対策の方向

1. 担い手確保・育成の基本的な考え方	○ 所得水準、労働・生活環境等の面で、若者をひきつける魅力ある農業・農村づくりを基本に、若い担い手を中心とした就農促進と創造力豊かな人づくりを推進
---------------------	---

2. 次代の担い手確保対策の方向



3. 担い手育成対策の方向



(3) 担い手確保・育成対策の推進体制の整備

主な対策の方向	○ 地域関係機関・団体による担い手対策の総合的推進のための体制の整備
---------	------------------------------------

2. 就農青年の意識と行動

地域における今後の後継者育成・確保の取り組みを考える場合、現実に就農している青年の考え方を
知ることは大切なことです。就農青年の意識と行動については、農業環境や経営上の役割が大きく影響
しています。また、年齢や地域などによって相違が見られます。

一般に就農青年は、農業に生きがいを感じ、経営に意欲的で、将来の経営改善にも積極的な意向を持
っています。南根室地区普及センターでは、平成6年9月に地区内の農業青年66名を対象にアンケート
を試みました。次にいくつかの調査結果をもとに就農青年の意識と行動について紹介し考察してみます。

(1) 農業に対する取組について

① 職業としての酪農経営を選択した理由

就農した後継者にとって、酪農経営は誰のためにあるのだろうか…、長男・長女だから、他にいく
ところなかった、親にすすめられてと元気のない回答が7割近くも占め、はっきりと「自分の
ために」と目的意識を持って就農した人は3割近くでは寂しい気もします。しかし長男・長女だか
らこそ責任感があり、「俺がやらねば」という前向きな姿勢として受け止める面のウエイトが大き
いように思われます。これからの時代、儲けたい、楽しみながら働きたいなど、自己実現の手段と
して、経営を位置づけることが必要です。

② 意欲的な就農青年の考え方

後継者が経営にどの程度の役割をはたしているかは、家庭の事情等で様々ですが、年齢の高低、
未婚・既婚の違い、経営権取得の有無等で、年齢が高まれば経験と知識が付き、営農意欲が高まる
のではないかと伺えます。一方、農業の将来、イメージからは、工夫・やり方次第と、自分の能力を
発揮することによって将来の展望が開けるとし、プロとしての職業感を持っている証拠であり、農
業に対して意欲的な考えを持ちながら、それぞれの目的達成の方向に進んでいるといえます。

③ 青年活動について

就農青年の集団への加入状況は、様々な組織への加入があり、集団組織を通じて、各種の行事や
地域活動への参加が見られます。加入の動機は地域の友人、先輩の誘いなど外部からの影響が大き
く、目的は仲間づくりや、農業の知識・技術の習得に重点を置いています。反面、組織そのものに
魅力がないとか、活動に興味を持たない、集まりが悪いとか、近年、青年活動がうまく機能してい
ない事が特徴として挙げられます。これらは、青年のニーズの多様化、個性化を物語っているとい
えます。

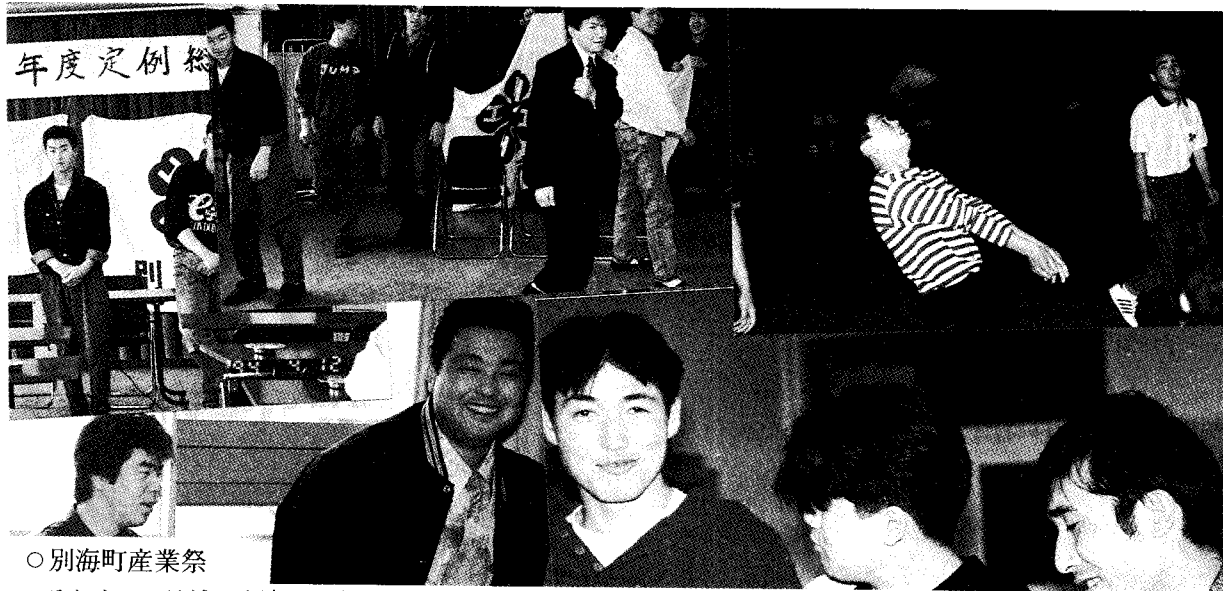
プロジェクト活動は、各種学習法のなかで有効な学習方法として広く行われていますが、やりた
くないが50%を占め、プロジェクトが定着しているとはいえません。仲間づくりを重視する反面プ
ロジェクト活動を敬遠するグループも珍しくなく、実績発表大会のためのプロジェクトとなっている
状況も見受けられますが、その前提として、「何もやりたいものがない、やりたくない」という
意識でなく、「何をどう進めたらよいかわからない」のが多くの青年達の実態であり、実際の学習
活動につながっていないことが伺えます。

以上、就農青年の意識について考察しましたが、青年の志向の多様化、人数の減少等はあるもの
の、農業を主体的に選択し、自分なりの農業観を持って、生活のための農業のあり方を真剣に追求
している青年が確実に増えているといえます。

3. 青年活動概要

別海町4Hクラブ連絡協議会

現在、中春別農協青年会と上春別4Hクラブの会員で構成しており、町内の農村青少年の学習と交流の場として事業を行っています。また、全道・全国大会の農村青少年の集いや青年農業者会議では、これまで数多くの発表を行い、実績をあげています。



○別海町産業祭

それまで、地域の人達との交流の場が少なかったことから、毎年秋に行われる町主催の産業祭で4Hクラブの活動をアピールしている。これまで行ったこととしては、自分の農場の不要品を集めて販売したフリーマーケットや人間ケーガの参加などがあり、今後もこういった場で地域の人達に4Hクラブの活動を理解してもらおうと考えている。

青年活

根室市4Hクラブ連絡協議会

各種青年農業者会議に積極的に参加し様々な実績をあげてきました。また、地域の人達と共に活動し、会員一人一人の自立と、新しい発想を養う事業展開を行っています。



○花壇整備、ドサンコジャンボリー

根室市農協前から根室支庁までにかけて、毎年国道脇の花壇の苗床作りを、市の老人クラブの人達と実施し、市民の目を楽しませています。また、市の産業祭にも積極的に参加し、ドサンコジャンボリーと称したポニーの乗馬や動物とのふれあいの場を設けて好評です。

中春別農協青年会

会員各自の課題を会の中で集約し学習、文化、スポーツ等の事業内容を通じて、会員相互で取り組んでいます。また地域に根ざした活動も行っており、地元の理解を深めています。



○演芸会

毎年行う恒例の活動で自作の劇、舞踊、手品、バンド演奏などを披露し、地元の人達を楽しませています。最近では会員の減少等で何かと苦勞が多いなか、準備、練習、演出などそれぞれが分担しこなしています。また、演芸会などを通じて上春別4Hクラブとの連携を密にしています。

動 概 要

上春別4Hクラブ

活動は会費で運営し、独自に参加者を集め、活動を進めています。現在、学習活動やスポーツ交流で活動基盤をかためており参加者も徐々に増加しています。



○視察研修

自分の経営に対する改善方策を模索する学習活動が主になっています。最近では釧路港に停泊する牛乳運搬船「ホクレン丸」を見学し、道外への流通過程を学習しながら良質乳生産に向けての意欲を高めました。

4. 根室内管内青少年組織図

別海町4Hクラブ連絡協議会

会員数 男41名 女2名 合計43名

会長 佐々木信雄(上春別4HC)



上春別4HCと中春別4HCの上部組織として活動しています。活動内容としては、青少年の集い(4Hクラブ員が一同に集い、交流を深める)、農業者会議(各クラブ員がテーマを持ち、経営改善の方策や意見を交換する)や勉強会、農家視察、スキー教室など酪農技術の交換や仲間づくりを目的とし、役場農林課、普及所の支援、指導のもとに活動を行っています。

中春別青年会

会員数 男21名 女2名 合計23名

会長 田口 豊次



中春別農協の下部組織に属しています。現在、会員数は少なくなっており、名前だけの会員が多くなっています。行事もマンネリ化したものが多く、新しい行事にも取り組み、組織構成も人数に見合ったものに改革中です。上部団体との取り組みも多く、地域外の青年達との交流も行っています。新人会員を募集しますので後継者の皆さんよろしくをお願いします!!

根室市4Hクラブ連絡協議会

会員数 男9名 女2名 合計11名

会長 伊藤 大輝



クラブ員11名と少人数で活動しています。主な活動内容は、国道沿いの花壇に堆肥を入れる奉仕活動、産業祭の乗馬コーナーの開設、農業者会議でのプロジェクト発表などがあります。このほか例会(月1回)を開いていますが、今後は研修会も取り入れていきたいと思っています。当クラブは、将来酪農を担う若者が新しい発想で自ら実践しようとする自主的な組織です。

上春別4Hクラブ

会員数 男20名 女0名 合計20名

会長 白石 政光



緑あふれる平坦で広大なここ上春別に、酪農後継者団体として集う「上春別4Hクラブ」があります。会長、副会長、会計の三役で構成し、クラブ員相互の親睦を図る活動を計画し、実行しています。主な活動としては、週に一度のスポーツ交流会、春秋のボウリング大会、サマーキャンプ、プロジェクト活動とその他、地域の行事にも参加、地元の活動に貢献しています。

根室内管内4Hクラブ連絡協議会

中標津町4Hクラブ連絡協議会

標津町4Hクラブ連絡協議会

過去3年間における4Hクラブの主な実績

平成3年度	北海道4Hクラブ員のつどい 演 示 発 表 小野 隆一(中春別) 北海道青年農業者会議 プロジェクト発表 上田 高志(根室市) 三ツ木正己(根室市) アグリメッセージ 伊藤 大輝(根室市)	平成4年度	北海道青年農業者会議 プロジェクト発表 小野 隆一(中春別) 三ツ木正己(根室市) アグリメッセージ 渡部ひろみ(中春別) 全国青年農業者会議 小野 隆一(中春別)
平成4年度	北海道4Hクラブ員のつどい 演 示 発 表 奥山 俊一(根室市)	平成5年度	北海道青年農業者会議 プロジェクト発表 伊藤 大輝(根室市) アグリメッセージ 佐々木信雄(上春別)

その他の関係組織

北海道立別海高等学校 農業特別専攻科

別海町青年団体協議会

各農協青年部・各青年会・各酪青研

J Aべつかいジュニアホルスタインクラブ

J Aべつかいジュニアホルスタインクラブ

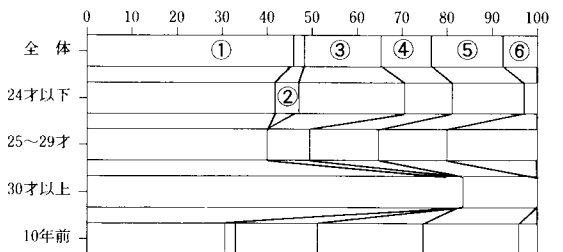
当クラブは、別海町酪農の基盤である「乳牛」を通して、子供達に酪農のすばらしさや食べ物としての牛乳、乳製品の大切さを学んでもらうことを目的としています。活動内容は、サマースクール、ウインタースクール、根室B&Wジュニアリードマン、スポーツ交流会、親子ボウリング大会などです。今年で4年を迎え、会員数も高校生・中学生を含む37名となりました。今後も将来酪農を担う子供達を育てていくことを目標に頑張っていきます。

5. 農業青年意識アンケート

酪農後継者の農業観、組織活動に対する意識を把握する目的でアンケートを実施し、その結果を10年前に行った同様のアンケート結果と対比しました。

アンケート対象農家（人） 合計66					
別海	15	上春別	15	西春別	12
中春別	7	根室	17		

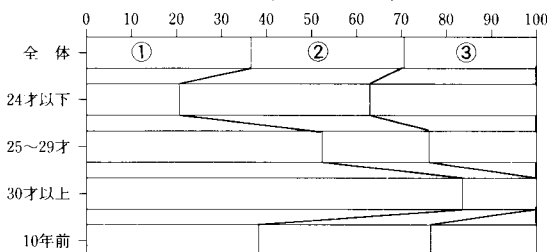
1. 就農した理由は何ですか？



- ①長男、長女だから ②親に勧められて ③後継者が私以外にいなかった
④産業として農業が魅力的であったから ⑤農作業が自分に適しているから
⑥就職先が他になかった

10年前に比べ農業が好き、魅力を感じてという理由は減少。とくに、産業として魅力を感じるという理由は、大きく減っている。

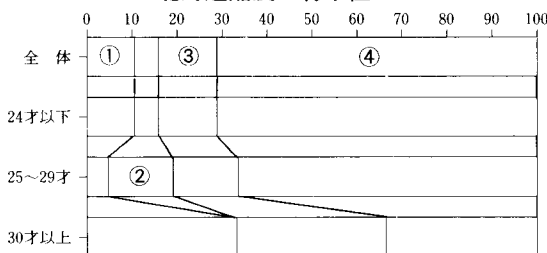
2. あなたの経営内での役割はどのようなものですか？



- ①経営全体 ②経営内の一部門 ③手伝い程度

後継者の役割分担は、その家庭の事情もあり様々だが、年齢が高くなるにしたがい、経営における責任が高まるようである。若い後継者には、あまり積極的でない者もいるようだが、親に自分の意見を取り入れてもらえないこともあるようだ。

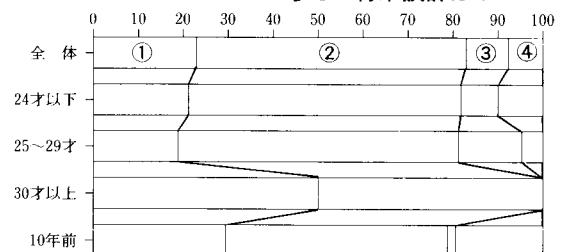
3. 北海道酪農の将来性については？



- ①ある ②ない ③わからない ④やり次第

多くの後継者が酪農に将来性ありと考えている。回答を年齢ごとにみると、単純にあるとの答えは、高い年齢ほど多く、やり次第との答えは若いほど多くなっている。

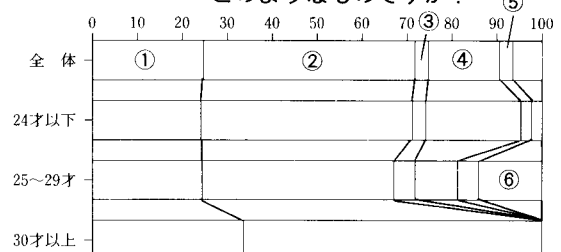
4. あなたの考える将来設計は？



- ①規模拡大 ②現状維持 ③規模縮小 ④わからない

全体として、現状維持が最も多い。また、規模縮小の回答が約10%あり、10年前にくらべ増えている。20代の後継者は拡大指向が少なく、30才以上の後継者の約半数は、現状規模の拡大を考えている。

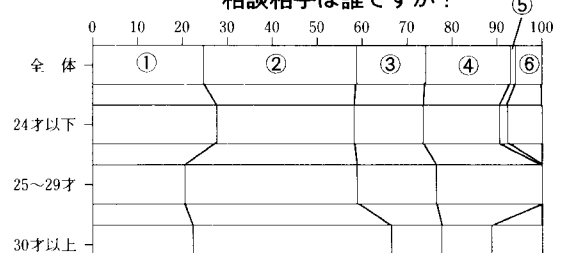
5. 農業に対するイメージはどのようなものですか？



- ①自然相手にのびのび仕事ができる ②工夫、努力で高収益になる
③生き甲斐を感じる ④他の産業に比べて割が悪い ⑤格好が悪い ⑥その他

全体的に、農業を良いと感じて仕事をしているが、マイナスイメージを持つ後継者が1/4いる。工夫、努力次第で高収益が得られるという回答の割合が30才以上で高い。

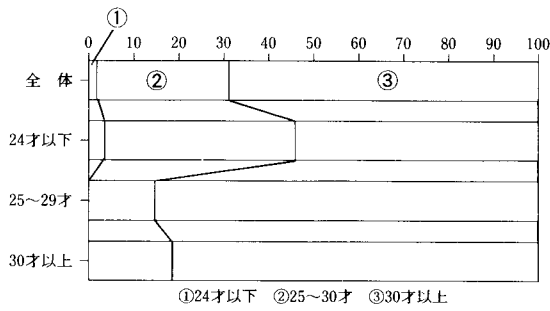
6. 経営や技術についての相談相手は誰ですか？



- ①両親、親戚 ②友人 ③農協職員 ④普及員
⑤学校の先生 ⑥その他関係機関、関連会社

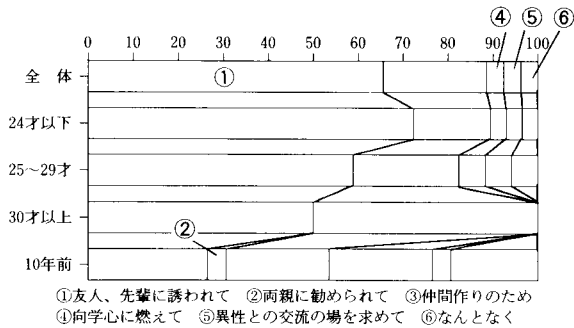
親、親戚、身近な人ほど高い割合となっている。中でも、友人が一番多く、同年代の仲間づくりが大切なことがうかがえる。

7. 何歳で委譲されたいですか？



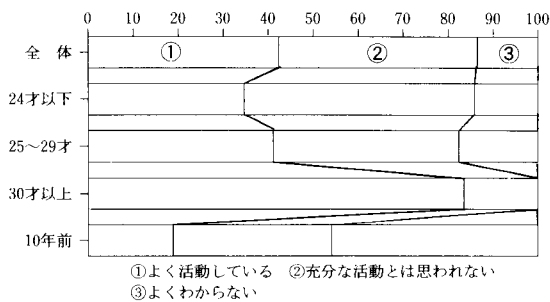
①24才以下 ②25~30才 ③30才以上
 全体的に、30才以上という回答が多い。もっと若い年齢（25~29才）で委譲を望む人もいる。

8. 4HC・青年会への加入の動機は何ですか？



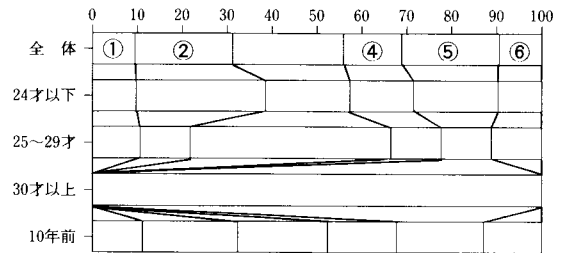
①友人、先輩に誘われて ②両親に勧められて ③仲間作りのため
 ④向学心に燃えて ⑤異性との交流の場を求めて ⑥なんとなく
 全体では、友人、先輩の勧めが2/3をしめる。現会員の勧誘活動が大きな力となっている。

9. 現在の会の活動についてどう思いますか？



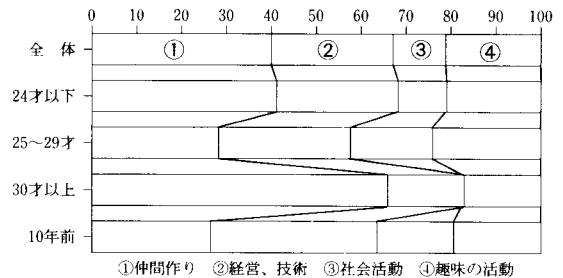
①よく活動している ②十分な活動とは思われない
 ③よくわからない
 現在、組織に属している者の約半数が、活動について不満を持っている。とくに、若い後継者に、不満回答が多い。若い人達の価値観が変わってきているのかもしれない。

10. 現在の活動が十分でない理由は何かだと思いますか？



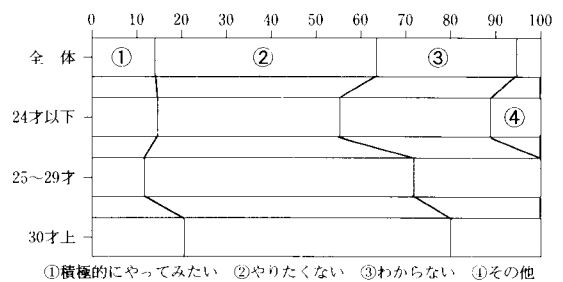
①リーダーとなる人間が少ない ②学習意欲が感じられない ③活動に興味がない
 ④内部、外部の交流の機会が少ない ⑤集まりが悪い ⑥その他
 集まりが悪いとの回答が最も多くなっている。次いで、活動に興味がない、であるが、興味を持っていないことが、集まりの悪い大きな理由と思われる。人集めをどうするか？会の活動が必ずしも会員のニーズに合っていないのだろうか。

11. 今後の会の重点は？



①仲間作り ②経営、技術 ③社会活動 ④趣味の活動
 仲間づくりとの回答が多く、組織に加入している最大の理由といえるのではないだろうか。とくに、30才以上でその傾向が高い。

12. プロジェクト活動についてどう思いますか？



①積極的にやってみよう ②やりたくない ③わからない ④その他
 年齢が高くなるにしたがい、やりたくないとの回答が多くなっている。また、実施方法が分からないという意見もあった。問題点を自分で発見し、後継者のニーズに合うプロジェクトのあり方を考える時期にきている。